

■ JIS R 5202 : 2015「セメントの化学分析方法」(追補 1)

(1) デシケーター

2010年版では、硫酸デシケーターを除くデシケーターの乾燥剤についてはシリカゲルを用いることを前提として規定されていなかったが、今回の改正では「デシケーターの乾燥剤は、シリカゲルを用いる」ことを共通事項として追加した。

(2) 強熱減量の定量方法

2010年版では、「高炉セメント及び高炉スラグの場合」の強熱減量の定量方法の操作において、強熱後の試料を用いた三酸化硫黄含有率の計算方法が詳細に記述されておらず、解釈によっては誤った計算をする可能性があったため、三酸化硫黄含有率の求め方を明確に記述した。

(3) 塩化ナトリウムの乾燥方法

2010年版では、塩化ナトリウムの乾燥方法は、硫酸デシケーターを使用することを規定していたが、JIS K 8005(容量分析用標準物質)の塩化ナトリウムの乾燥方法に整合し、デシケーターの乾燥剤をシリカゲルとした。

(4) 塩化カリウムの乾燥方法

2010年版では、塩化カリウムの乾燥方法は、硫酸デシケーターを使用することを規定していたが、JIS K 8121(塩化カリウム(試薬))の乾燥減量の操作に整合し、デシケーターの乾燥剤をシリカゲルとした。

(5) 塩素の定量方法(電位差滴定法)

2010年版では、塩化物イオン標準液(0.005mol/L)の添加量を2.00mLに固定していたが、滴定曲線における変曲点の検出が困難な場合があったため、加える添加量を2.00~5.00mLの範囲で添加できることとした。

以上